

であって、信号機は手動式のもが使用されている。

スマトラ島の本社の所在地は Medan, Sumatra である。

参考文献 Tothill Press Ltd. 発行 Directory of Railway Officials & Year Book 1953~54. Henry Sampson, World Railways 1954~55. (光延有三)

インドのてつどう 印度の鉄道 1854年ボンベイ・サーナ間に建設された鉄道が印度における鉄道のはじめであるが、これはまたアジアにおける最初の鉄道でもある。初期においては鉄道の建設はすべて私有私営によったが、1874年印度政府も鉄道の建設を行うことになり、国有鉄道理事会が設けられた。理事会は、1905年3名の委員から成る鉄道委員会 (Railway Board) に改組された。1925年イースト・インディアン、グレート・インディアン・ベニシュラ、ノース・ウェスタン、イースト・ベンガルの諸鉄道は国有となった。

鉄道委員会は英領印度が英連邦内自治領となり、さらに1950・1共和国として独立したのちも、従来の組織がそのまま引継がれたが1951・4技術、運輸、職員関係担当の各委員と財政担当官から構成され、技術委員が委員長を兼ねる組織に改められた。また委員長の下に各部門を担当する理事、副理事、部長がおかれ、さらに印度鉄道において使用する各種資材の規格統一をはかるため鉄道中央規格局が設けられた。

1952・4従来の鉄道線を主とした地方組織を一定の地域を1つの管轄区域とすることに改め、南部、中央、西部、北部、北東、東部の6鉄道が設けられた。

各鉄道には総支配人がおかれ、その下に技師長および運転、営業、機械、電気、通信・信号、財政、広報、医務の各長がおかれ、それぞれの部門を担当する。

6鉄道の管轄区域、延長キロ、輪転材料の大要はつぎのとおりである。

1 南部鉄道 マドラスを中心として印度半島部の南部地域を占め、旧マドラス・サウス・マーラッタ鉄道、サウス・インディアン鉄道、マイソール鉄道が合併されたものである。

総延長 9,638 km のうち 2,820 km は広軌 (1.676 m)、6,654 km は 1 m 軌、164 km は狭軌 (0.762 m) である。28 km が電化されている。

1954 年度輪転材料は各ゲージのもの合わせ機関車 1,424 (うち電気 4)、客車 3,837、貨車 24,601、緩急車 848 両である。

2 中央鉄道 ボンベイ、デリー、ナグプール、ハイダラバードなどの諸都市を含む印度の中央部を占め、旧グレート・インディアシ・ベニシュラ鉄道、ニイザム鉄道、ドルバー鉄道、シンジア鉄道が合併されたものである。

総延長 9,044 km のうち 654 km は広軌、1,235 km は 1 m 軌、1,264 km は狭軌である。296 km が電化されている。

輪転材料は機関車 1,189 (うち電気 66)、レールカー 10、客車 2,348、貨車 31,927、緩急車 616 両である。

3 西部鉄道 西部地方のパロダ、ジャイプールを含む地域を占め、旧ボンベイ・パロダ・セントラル・インディアン鉄道、サウラジャトラ鉄道、ゼーブラー鉄道、ラジャスタン鉄道が合併されたものである。

総延長 8,920 km のうち 2,017 km は広軌、5,660 km は 1 m 軌、1,234 km は狭軌である。

輪転材料は機関車 1,215 (うち電気 4、ディーゼル 28)、レールカー 47、客車 3,275、貨車 27,088、緩急車 509 両である。

4 北部鉄道 首都デリーの北西部一帯の地域にわたり、旧イースタン・パンジャブ鉄道、ビカーナー・ジャドプール鉄道、イースト・インディアン鉄道の一部を合併したものである。

総延長 9,686 km のうち 6,272 km は広軌、3,209 km は 1 m 軌、205 km は狭軌 (0.762 m および 0.510 m) である。59 km が電化線である。

輪転材料は機関車 1,392、レールカー 4、客車 2,946、貨車 31,004、緩急車 586 両である。

5 北東鉄道 カンプール、ラクノー、アラハバード、ベナレス、ダージリング等を含む印度北東部の地域にわたり、旧オーダー・ターハット・アッサム鉄道、ボンベイ・パロダ・セントラル・インディアン鉄道の一部が合併されたものである。総延長 7,659 km のうち 7,547 km は 1 m 軌、112 km は狭軌である。

輪転材料は機関車 1,010、レールカー 2、客車 2,838、貨車 22,767、緩急車 347 両である。

6 東部鉄道 カルカッタ、ナグプール、バトナ等の都市を含む印度中央部の東部地域を占め、旧ベンガル・ナグプール鉄道、イースト・インディアン鉄道の一部が合併されたものである。

総延長 9,080 km のうち 7,573 km は広軌、1,507 km は狭軌である。

輪転材料は機関車 2,244、客車 3,529、貨車 74,082、緩急車 1,435 両である。

以上国鉄のほか 14 の私有私営鉄道があるが、いずれも狭軌で、その延長は総計 885 km である。

印度鉄道運輸統計

項目	単位	1953~54	1954~55
乗車人員	100万人	1,220.4	1,259.2
旅客マイル	100万	37,548.6	38,649.3
旅客収入	クロール・ルピー	101.35	103.74
貨物発送トン数	100万t	99.4	107.0
純トンマイル	100万	29,568	32,136
貨物収入	クロール・ルピー	145.39	156.45

参考文献 Henry Sampson, World Railways 1954~55. Tothill Press Limited, Directory of Railway Officials & Year Book 1954~55. (柄沢貞治郎)

